

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500165	事業の開始年月日	平成23年5月1日	
		指定年月日	平成23年5月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム宮前野川			
所在地	216-0001)			
	川崎市宮前区野川338			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には鳥のさえずりが聞こえてくる環境の中で、入居者様の穏やかな生活を送っていただくべく、安心できる生活環境づくりに注力している。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年11月11日	評価機関 評価決定日	平成29年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は東急田園都市線「梶が谷駅」北口から東急バスで約7分、「上野川」バス停から、なだらかな坂を5分ほど登った住宅地の中にあります。鉄骨造りの白い明るい外装を持つ2階建ての建物です。部屋によっては眼下に市街地を見ることができます。

<優れている点>

職員は、利用者が自分で選んだり、好きな事を言ったりすることがきる環境を大切に考えています。外に遊びに行きたい、花見がしたい、寿司が食べたいなど利用者の希望をふまえて、月に1回のレクリエーションを考えたり、外出を行っています。他の系列事業所の大型車を借り、近隣の大型ショッピングモールに利用者全員で出かけ、利用者がそれぞれ行きたい場や店舗に入り、好きなものを探し、食べたい物を食べるなどの事を職員総出で支援しています。また、日々の生活の中では、おやつ時間に「自分で選んで作る」をコンセプトに職員は材料だけを用意し、利用者にパフェやあんみつを自分で好きなようにトッピングし、自分だけのおやつを作ってもらっています。近隣との関係を大切にしています。保育園児を夏祭りに、近隣住民をバーベキュー大会に、近くのデイサービス利用者をそば打ち・天ぷら食事会などに招待し、地域交流を積極的に行っています。

<工夫点>

機械を導入し、認知症に対応する新しい試み(回想法、体操、カラオケなど)を日常生活の様々な場面において、利用者と職員で積極的に行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム宮前野川
ユニット名	ニコニコ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝礼時、運営理念の唱和をすることで、理念に沿ったケアを実践すべく業務についている。運営理念：1その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。2心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。3様々な機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。	朝礼時に運営理念を唱和しています。運営理念に沿ったケアの実践として、利用者が安心して生活を送ることができるよう支援しています。スタッフからの発案で、月1回行われるレクリエーションで、買い物に出かけたり外食に出かけたりしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流について、町内会に加入し今後の予定に合わせ交流を密にしていく。地域の集まりには月1回参加させていただき、少しずつ交流を広げている。保育園との交流が図れた。	地域との繋がりを大切にしています。夏祭りには保育園児を招待してプレゼントをしたり、バーベキュー大会には近所の人を招待し、一緒に楽しんでいます。近くのデイサービスに通っている利用者を招待してそば打ちをしたり、天ぷらを一緒に食べたりもしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現段階では、施設に来られた方へのみしか認知症の人の理解や支援の方法を発信出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括・区役所にも声をかけ、運営推進会議の輪が広がってきている。意見はあまり聞かれないため、少ない意見の中から今後に生かすべく励んでいる。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。会議では、イベントの増加、外出の機会を増やして欲しいなどの意見が出されています。おやつ作りのイベントを行ったり、ワゴン車を借り、利用者全員で出かけたりして、会議での意見を活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、地域の集まりの時に少しずつだが、意見交換をし協力関係の構築を行っている。	高齢・障害支援課、保健福祉センター保護課の担当者と必要に応じて連絡を取っています。利用者の情報交換や、生活必需品の購入についての相談などを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。マニュアルに沿った研修をホーム内で実施時、職員に周知している。	身体拘束は行っていないが、不適切な言葉掛けや行為があった場合、スタッフ間で注意を促したり、ミーティングの中で事例検討として職員全体で話し合っています。また、年2回研修を行い、職員が気付かないで行う身体拘束などについて学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待とは、という部分からをホーム内研修時に行っている。そうすることで、虐待に対する理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	難しい部分ではあるが、研修の機会を設け、少しずつ理解をしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際に、ご家族様と契約書・重要事項説明書の読み合わせをすることで、理解・納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設けている。運営推進会議の出欠表にも意見・要望欄を設け、そこから抽出した意見等を運営に反映させている。	運営推進会議の出席案内を利用者家族に出す時には、意見、要望を書く欄を設けています。家族からは、イベントやアクティビティについて意見が出されています。可能な限り運営に反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム長・副ホーム長が各職員の意見等を確認していて職員が納得して支援の出来る工夫をしています。	ホーム会議を月1回、1時間半程度開催しています。会議では、利用者に対するケアの方法の話が出たり、消耗品の補充についての話が出ています。また普段から、ホーム長、副ホーム長が個々の職員の話聞き、職員が納得してケアを行うことができるように工夫しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフのモチベーションの低下につながらないように意識を持ち、徐々にではあるが理解を得て安定してきている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修を月一回設定し、参加を集っている状況にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月一回の地区の集まりに参加時、同業者との意見の交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の状態をしっかりと把握し、それに伴いスタッフ間で情報の共有をしている。そこから、ご本人に見合ったケアを模索し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族来訪時、電話対応時にご本人の状態を伝え、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントの段階で、ご本人おおよその状況把握をし検討する。入居後にその方にとって必要なケアの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	近過ぎない関係を作ることで、冷静な判断をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人のためにより良い状況を作るべく、ご家族様とも良い協力体制を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人に必要な関係が途切れることが無いよう、必要な時には必要に応じた助力をしている。	利用者の年齢もあり、以前の馴染みの関係を継続することは、なかなか難しくなっています。職員は家族ではありませんが、できる限り家族に近い存在として、気軽に何でも話せる関係を構築できるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ孤立した状況を作らないよう、座席の配置等考慮している。また、たたみ物等の手伝いや、工作も共同できるものを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	全ての契約終了者ではないが、関係を断つことが無いよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員本位にならぬよう、職員間で検討しご本人の希望に添えるよう努めている。	日常の会話の中から、気になることがあった時には、一歩踏み込んだ会話をし、利用者の体調、本当の気持ちなど様々な情報を得る事ができるように努めています。得られた情報は利用者ごとの送りノートに記入し、職員全体で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルを活用し、ご本人の状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の状態を把握することで、ご本人らしい生活のあり方を検討し対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場の職員から集めたモニタリングを活用し、出来る事をして頂く介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、モニタリングを行っています。前月行われたレクリエーション時の様子を話し合い、利用者のできる事を次回の介護計画の中に組み込むようにしています。家族からの要望で、訪問マッサージを介護プランに入れたこともあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご本人の有する能力に新たな発見があったときは、職員間で情報の共有をし、それを伸ばしていく介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な対応をすべく、職員の意識改善を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の活用をすべく、個々に外出の機会を設けたりしている。そういった気分転換を図ることで、ご本人の心身の安定を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2か所の医療機関と提携しており、個々にあった医療を提供すべく努めている。	かかりつけ医については2つの医療機関を主としていますが、入居前からのかかりつけ医や希望する病院がある場合はそちらを優先しています。診療の結果については、毎月発行している「当月の様子」で家族に報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一の看護師と密に連携を図り、そこから医者につなげることもある。専門的な知識のもと、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりがうまく図れておらず。しかし、ご入院になられた時には、早期の退院をしていただくため、入院先の医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期に向けた方針について書面を用いた説明にて共有をしています。現時点では本人とかぞく	現在、重度化や終末期の受け入れはしていませんが、看取りについて職員の研修は行っています。入居時には必ず看取りの説明を家族にし、同意書をもっています。	看取りの研修は行っていますが、職員に経験がないことや、協力医との連携などの課題が残っています。条件が整い次第、看取りの体制が実現することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行えておらず、各職員に実践力が身につけている状況ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の防災訓練は行っているが、現状地域との協力体制の構築が出来上がっていない。町内会に入会したのでこの先構築していく。	マニュアルを作成しています。今年度は地域との食事会で防災協力体制の依頼を進めています。水、みそ汁、カンパン、アルファ米、おむつなどの備蓄があります。AEDが設置しており、職員研修も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間でご本人の情報共有を行い、その方の個人を尊重したペースにあった声掛け、支援等をしている。	全体会議の中でプライバシーについて話し合うことがあります。基本は、利用者の気持ちを第一に考え、さり気ないケアや言葉掛けをするよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人本位のケアをすべく、職員が主導する事の無いよう、留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限りご本人のペースを大切にしている。しかし、その人らしい暮らしが、必ずしも提供出来ているわけではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出等の機会があるときは、身だしなみを整えさせて頂いている。また、外部からのネイルサロンとも連携を取り、生活の質の向上を図っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好品が個々によって違うため、アクティビティの時などに、普段とは違う食事・おやつを提供し全体の満足を図っている。	1ヶ月に2回はイベント食の提供をしています。最近では、お好み焼き大会、自分の好きなように作ることができるあんみつやパフェも好評を博しています。おでんの時は利用者による「ゆで卵のカラむきに挑戦」というゲームで楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日常の声掛け、様子観察を行い出来る限り食事・水分量にムラがないよう留意している。またご本人に好まれる物の検討もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必ずしも毎食後は出来ておらず。自立の方はご本人のペースで口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の状態にあった対応を考慮する中で、その方の排泄・水分のチェック表を用い本人のプライドが損なわれないように必要に応じておむつも使用して頂いている。	最近おむつ使用への変化がある利用者が出てきており、時間と様子をみて、おむつから綿パンツに移行する計画です。また、おむつ解消のため、夜間はポータブルトイレに職員が誘導して排泄することもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘に対して、飲み物等でも排便を促すよう対処している。また医療とも連携を図り、薬等でも対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を心掛けご本人が心地よく入浴できる声掛けを工夫し、入浴中はご本人のペースで入浴して頂けるようケアを行っている。	1日に2名の利用者の入浴を行っています。時間は1人当たり45分と長めにしています。殆んどの方が自力で湯船に入ることは可能ですが、アクシデント対策として風呂に滑り止めを用意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご様子の観察をしている中で、必要に応じてこちらから休息の時間を提案・提供させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者様のお薬情報を身近に置いておくことで、職員が確認しやすい状況を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の状態を把握することで、ご本人に適切な役割を持っていただくべく検討し、対処している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物時に一緒に買い物や散歩、日常のゴミだし等少しでも気分転換が図れるように外気浴を楽しむ機会を出来るように注力している。	毎日散歩を行うようにしています。行事やイベントが午前中になった場合は午後に外出しています。近くに商店がないので徒歩での買物は難しく、車が出掛けることもあります。外食では回転寿司に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人のお小遣いの有効利用が出来る様、地域資源の活用、ご本人の希望等を聞き、適切に対処している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があったときは、電話を取り次ぐ手紙を出す等の対応を適宜している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の清掃はもちろん、感染症の予防にも努めている中行事の写真や利用者作品を掲出し季節感を持てる空間づくりを行っている。また、エアコンの使用温度等にも気を配っている。	大人の雰囲気のある飾り付けや、利用者が作成した作品は多くの賞をもらっています。共有空間での利用者のテーブルの席は事業所で決めたものではなく、利用者が自分で決めて座っています。共有空間の掃除は、利用者が率先してしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人お一人がご家族と共に居心地の良い空間を作られている。必要に応じて、職員からご家族に提案もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と連携を図り、ご本人に居心地の良い空間を作るべく、入居後に調度品の配置を好みに変える手伝いをしています。	入居の際の事前説明では、なぜ馴染みのものを用意してほしいかを伝え、できるだけ自分のものを増やし、安心して生活できるような体制としています。化粧台に高級な化粧品やブランド物のハンカチを飾っている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部・個人居室が分かりやすく、比較的入居から早い段階で、安心した自立できる生活を送っていただいている。		

事業所名	愛の家グループホーム宮前野川
ユニット名	つきみそう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝礼時、運営理念の唱和をすることで、理念に沿ったケアを実践すべく業務についている。運営理念：①その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。②心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。③様々な機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流について、町内会に加入し今後の予定に合わせ交流を密にしていく。地域の集まりには月1回参加させていただき、少しずつ交流を広げている。保育園との交流が図れた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現段階では、施設に来られた方へのみしか認知症の人の理解や支援の方法を発信出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括・区役所にも声をかけ、運営推進会議の輪が広がってきている。意見はあまり聞かれないため、少ない意見の中から今後に生かすべく励んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、地域の集まりの時に少しずつだが、意見交換をし協力関係の構築を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。マニュアルに沿った研修をホーム内で実施時、職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待とは、という部分からをホーム内研修時に行っている。そうすることで、虐待に対する理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	難しい部分ではあるが、研修の機会を設け、少しずつ理解をしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際に、ご家族様と契約書・重要事項説明書の読み合わせをすることで、理解・納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設けている。運営推進会議の出欠表にも意見・要望欄を設け、そこから抽出した意見等を運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム長・副ホーム長が各職員の意見等を確認していて職員が納得して支援の出来る工夫をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフのモチベーションの低下につながらないように意識を持ち、徐々にではあるが理解を得て安定してきている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修を月一回設定し、参加を集っている状況にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月一回の地区の集まりに参加時、同業者との意見の交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の状態をしっかりと把握し、それに伴いスタッフ間で情報の共有をしている。そこから、ご本人に見合ったケアを模索し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族来訪時、電話対応時にご本人の状態を伝え、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントの段階で、ご本人およびその状況把握をし検討する。入居後にその方にとって必要なケアの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	近過ぎない関係を作ることで、冷静な判断をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人のためにより良い状況を作るべく、ご家族様とも良い協力体制を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人に必要な関係が途切れることが無いよう、必要な時には必要に応じた助力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ孤立した状況を作らないよう、座席の配置等考慮している。また、たたみ物等の手伝いや、工作も共同できるものを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	全ての契約終了者ではないが、関係を断つことが無いよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員本位にならぬよう、職員間で検討しご本人の希望に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルを活用し、ご本人の状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の状態を把握することで、ご本人らしい生活のあり方を検討し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場の職員から集めたモニタリングを活用し、出来る事をして頂く介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご本人の有する能力に新たな発見があったときは、職員間で情報の共有をし、それを伸ばしていく介護計画に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な対応をすべく、職員の意識改善を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の活用をすべく、個々に外出の機会を設けたりしている。そういった気分転換を図ることで、ご本人の心身の安定を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2か所の医療機関と提携しており、個々にあった医療を提供すべく努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一の看護師と密に連携を図り、そこから医者につなげることもある。専門的な知識のもと、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりがうまく図れておらず。しかし、ご入院になられた時には、早期の退院をしていただくため、入院先の医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期に向けた方針について書面を用いた説明にて共有をしています。現時点では本人とかぞく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行えておらず、各職員に実践力が身につけている状況ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の防災訓練は行っているが、現状地域との協力体制の構築が出来上がっていない。町内会に入会したのでこの先構築していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間でご本人の情報共有を行い、その方の個人を尊重したペースにあった声掛け、支援等をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人本位のケアをすべく、職員が主導する事の無いよう、留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限りご本人のペースを大切にしている。しかし、その人らしい暮らしが、必ずしも提供出来ているわけではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出等の機会があるときは、身だしなみを整えさせて頂いている。また、外部からのネイルサロンとも連携を取り、生活の質の向上を図っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好品が個々によって違うため、アクティビティの時などに、普段とは違う食事・おやつを提供し全体の満足を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日常の声掛け、様子観察を行い出来る限り食事・水分量にムラがないよう留意している。またご本人に好まれる物の検討もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必ずしも毎食後は出来ておらず。自立の方はご本人のペースで口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の状態にあった対応を考慮する中で、その方の排泄・水分のチェック表を用い本人のプライドが損なわれないように必要に応じておむつも使用して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘に対して、飲み物等でも排便を促すよう対処している。また医療とも連携を図り、薬等でも対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を心掛けご本人が心地よく入浴できる声掛けを工夫し、入浴中はご本人のペースで入浴して頂けるようケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご様子の観察をしている中で、必要に応じてこちらから休息の時間を提案・提供させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者様のお薬情報を身近に置いておくことで、職員が確認しやすい状況を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の状態を把握することで、ご本人に適切な役割を持っていただくべく検討し、対処している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物時に一緒に買い物や散歩、日常のゴミだし等少しでも気分転換が図れるように外気浴を楽しむ機会を出来るように注力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人のお小遣いの有効利用が出来る様、地域資源の活用、ご本人の希望等を聞き、適切に対処している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があったときは、電話を取り次ぐ手紙を出す等の対応を適宜している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の清掃はもちろん、感染症の予防にも努めている中行事の写真や利用者作品を掲出し季節感を持てる空間づくりを行っている。また、エアコンの使用温度等にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人お一人がご家族と共に居心地の良い空間を作られている。必要に応じて、職員からご家族に提案もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と連携を図り、ご本人に居心地の良い空間を作るべく、入居後に調度品の配置を好みに変える手伝いをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部・個人居室が分かりやすく、比較的入居から早い段階で、安心した自立できる生活を送っていただいている。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム宮前野川

作成日： 平成 29年 1月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	介護経験が少ない職員がいるので、医療との関係に課題あり。 重度化、終末期に向けての意識が薄い点がある。	看取り研修を行なう。	ホーム会議にて看取りの研修を行なう。 介護経験の少ない職員に関しては、個別に対応していく。	8ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月